

金春安明金春流八〇世宗家による謡本「小萩」の復曲

本屋禎子

宮城野の露ふきむすぶ風の音に

小萩がもとを思いこそやれ

「小萩」という謡は源氏物語桐壺の巻に、桐壺の更衣が娘小萩に心を残して亡くなり、そのことを主題にして作られた謡本で、桐壺の更衣が宮城野に現れ舞います。

宮城野、小萩、名取川など仙台になじみの地名もよく出てくるものです。この謡本は金春家に一冊と仙台伊達家（宮城県図書館伊達文庫）に二冊と法政大学に一冊しか存在しない貴重なものです。伊達政宗は桜井八右衛門を奈良の金春禪曲（安照）に学ばせたことから、以来伊達家と金春流のつながりがあるのです。

地元宮城野の地、仙台では鎌倉時代以前からと思われる「小萩」の伝説、歌物語があります。「小萩」は乳母の名として伝えられ、小萩観音は、奥州藤原氏三代藤原秀衡氏の三男の女兒の乳母小萩が亡

くなった女兒の冥福を祈り、女兒の護持仏の十一面観音を奉ったことによります。

仙岳院の現在の小萩観音は明治の廃仏棄釈で民家の所有となったものを当時のご住職が買い取り仙岳院に移したものです。

仙台に「小萩物語」としてのいくつかの伝説、史跡が残っており、小萩塚「露無の里」や福澤神社等の小萩所縁の史跡などがあります。仙台金春会では大阪・奈良・名古屋・東京からの流友達とこれらの史跡を訪ね「小萩」を謡いました。ある大阪からの参加者の「千枝子先生（禎子の母）から続く命のつながりの輪の中に入れてもらってうれしい」との言葉です。今に生きる私たちにとって大切な謡本「小萩」なのです。

金春安明師は式千一年一月六日に、母の霊前に「小萩」という謡を復曲し手向けて下さいました。